

週報 みえぎよれん

～浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌～

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

沿岸漁村の地域マネジメントと 海面養殖業 ～10/26 三重大学生物資源学部で開催～

10月26日(日)午前9時より、三重大学生物資源学部 2F 大講義室に於いて「沿岸漁村の地域マネジメントと海面養殖業」と題してのシンポジウムが下記の通り開催される。市民の聴講も可能なので、主催者は多数の来場を呼び掛けている。

第 1 回いなかビジネス実践大会 ～宝物は足元に、見つめ直そう地域資源～ ～三重県総合文化センター～

10月21日(火)午後1時45分より、三重県総合文化センターに於いて、「第1回いなかビジネス実践大会」が開催され、農山漁村での地域活性化に取り組む約120名が出席した。

この大会は、農山漁村地域の高齢化・人口減少が進むなかで地域の豊かな資源を活用し、雇用や就業機会を創出する「いなかビジネス」の取組拡大や質的向上が、地域の活性化を図るうえで必要不可欠。そのため、農山漁村地域でいなかビジネス(経済活動)に関わる方々の情報交換や研修の場として開催された。

冒頭の鈴木三重県知事の挨拶後、「年商32億円“ゆずの村”馬路村(うまじむら)の仕掛け人」松崎了三氏が「活かそう!三重の地域資源、まずは足元を見つめて」の基調講演が行われ、普段見慣れていて気づかない地域資源を活用するためのアドバイスに参加者らは熱心に耳を傾けていた。

特に強調していたのが、イメージ(情報)戦略で、馬路村の場合、ゆずはどこにでもあるもの。それなら商品よりも地域の名前を売ろうと、出来上がったゆずの商品名に「馬路村」を入れたことや、東京の電車内に掲示したゆず商品のP

地域漁業学会第56回大会シンポジウム

沿岸漁村の地域マネジメントと 海面養殖業

日 時：平成26年10月26日(日)
場 所：三重大学生物資源学部
2F大講義室

(問合せ先)
三重大学生物資源学専攻 資源循環学専攻
常 清秀 (電話:059-231-9536)
松井 隆宏 (電話:059-231-9535)

プログラム

後 援	地域漁業学会 会長 田中正幸(関西学院大学)	9:00-9:15
1. シンポジウム報告		
■沿岸漁村の地域マネジメントと海面養殖業	常清秀(三重大学)	9:15-9:45
■海面養殖業と沿岸漁村の再生～変換業と福井県の事例～	長谷川慎二(福井県立大学)	9:45-10:15
■大規模養殖業と地域社会～高伊勢町神野浦を事例に～	松井隆宏(三重大学)	10:15-10:45
■養殖型養殖業と地域社会～三重県の事例～	藤吉利彦(三重県農林水産部)	11:00-11:30
■海面養殖業における新たな技術開発の取組み	青木秀典(三重県水産研究所)	11:30-12:00
■日本養殖業の発展と地域社会	佐野拓昭(鹿児島大学)	12:00-12:30
II コメント・総合討論		
■コメンテーターからのコメント		14:00-14:30
■総合討論		14:30-16:00

【コーディネーター】常 清秀(三重大学)
【座 長】田中正幸(関西学院大学) 島居孝司(鹿児島大学)
【コメンテーター】
小野任一郎(東京海洋大学名誉教授・農林中金総合研究所審査研究員)
佐藤 力生(三重県漁業協同組合連合会・アドバイザー)
日向野純也(独立行政法人水産総合研究センター増養殖研究所・養殖システム部部長)
(敬称略)

【お問い合わせ先】

三重大学生物資源学専攻資源循環学専攻

常 清秀 (電話:059-231-9536)

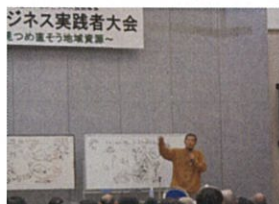
松井 隆宏 (電話:059-231-9535)

Rポスターにも馬路村の地名やモリやタモを持ち水中メガネをかけた馬路村の子どもの写真と「お兄ちゃん、帰ってくる言うたやいか。」と言う土佐弁の言葉を大きく（商品は端に小さく）掲載して、馬路村の「素朴な田舎の兄弟の絆」をイメージさせたこと。

講演の後、3つの分科会に分かれて、それぞれのテーマに沿った研修を受講し、閉会となった。



(鈴木三重県知事の挨拶)



(講師の馬路村 松崎氏)



(熱心に聴講する参加者)

海女サミット 2014in 志摩
～10/25 (土)・26 (日) 志摩市で開催～



10月25日(土)、26日(日)に志摩市で海女漁の振興を図る「第5回海女サ

ミット 2014in 志摩」が開催される。このサミットには関東から九州まで十府県や韓国・済州島から100人の海女が集まり、後継者対策などについて意見を交換し、働く海女の姿をアピールする。

初日の25日(土)は、午後1時30分から大王崎灯台下須場の浜で海女によるアワビの稚貝放流、午後2時30分から磯部生涯学習センターで「海女の後継者」をテーマにしたシンポジウムがある。

2日目の26日(日)は、午前9時30分から合歡の郷ホテル&リゾートで小説「いそぶえ」で知られる作家「谷村穂氏」による「海女さん賛歌」としての記念講演やベテラン海女や若手海女による座談会がある。

(注)既に申込み期限が過ぎていますが定員に若干名の余裕があるもよう(市民の聴講可能)。

【お問い合わせ先】

海女振興協議会事務局
(志摩市役所観光戦略室内)
TEL : 0599-44-0005
FAX : 0599-44-5261
メール : kankosenryaku@city.shima.lg.jp

【主な予定】

- 10月26日(日)早田漁師塾開校 (尾鷲)
- 11月1日(土)第3回尾鷲さかなまつり (尾鷲)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。